

令和6年度 鹿角市立八幡平小学校 学校評価書

<参考表示>

市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価 中間	外部評価 中間	自己評価 年度末	外部評価 年度末	市の施策の柱
基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	①基礎・基本の確かな定着に向けた基本的な学習習慣の形成 ②諸検査の結果分析とその活用による授業改善	3	3	3	3	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②進ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	①ふるさとへのよさを発見し、ふるさとへの愛着を深めるための活動の充実 ②自分の将来を見つめることを目指した体験活動や小中連携の充実	3	4	3	4	①社会的・職業的自立を目指す教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	①学び合いの充実を図り、自分の考えを進んで表現する態度の育成 ②ICTの効果的な活用による情報活用能力の育成	3	3	3	4	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
基本方向4 豊かな心を育みます。	①明るいあいさつや場に応じた言葉遣い等、向上心、思いやりなど豊かな心の醸成 ②互いのよさを認め合い、自己有用感と主体性を育む集団づくりの推進	3	4	3	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成 ②規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
基本方向5 健やかな体を育みます。	①健康教育の充実による基本的生活習慣の形成 ②運動習慣の形成と体力向上のための継続的な取組	3	3	3	3	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	①一人一人の教育的ニーズの把握と校内支援体制の整備 ②一人一人の居場所をつくり、よさを伸長する機会や役割の充実	3	3	3	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくります。	①安全教育の推進と危機対応能力の向上 ②校舎内外の安全確保と施設・設備の適切な整備	3	4	3	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	①指導力を高め、学校課題に沿った校内外での研修の充実 ②研究主題の具現化に向けた授業力向上のための研修の充実	3	4	4	4	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	①学校運営協議会による学校運営と家庭・地域への積極的な情報発信 ②地域の教育力の活用と幼保・中との連携の推進	3	4	4	5	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実現状況は良好である	達成率80~90%
3	実現状況はおおむね良好である	達成率60~79%
2	実現状況はやや不十分である	達成率50~59%
1	実現状況は不十分で努力を要する。	達成率49%以下

基本方向1「自己実現のために必要な確かな学力の定着」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	5月の学習アンケートでは、学年が上がるにつれ「勉強が分かる」児童の割合が下がる傾向がある。学習内容の定着が弱く、分かる楽しさを実感できない児童が見られる。 学習状況調査では、読む本の冊数や図書館利用回数が全県平均より低い。	中間	3	中間	3	「見方・考え方」を重視した授業構想ほか様々な取組によって効果が上がっている。基礎基本の確かな定着に向けた基本的な学習習慣の定着に一層期待する。また、分かる楽しさや学ぶ楽しさを実感できる児童が増えるよう、工夫・改善をお願いしたい。
年度末	勉強が分かると実感し、主体的に学習に取り組む児童が増えている。一方、諸調査の結果からは基礎学力の定着率が充分とは言えない。分かる楽しさの実感を大切にしながら基礎学力の定着につながる授業改善が必要である。読みかせボランティアの継続により読書への関心が高まっている。	年度末	3	年度末	3	「見方・考え方」を明らかにした授業構想などの取組の効果が見られる。基礎・基本の確かな定着に向けた基本的な学習習慣の形成に期待している。また、学力の二極化への対応を引き続きお願いしたい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に行われた4年生以上の学力調査の結果から、どの学年も学力の二極化が見られる。また、7月に行った学習アンケートでは、「勉強が分かる」の割合が全学年で上がっている。教師が、「見方・考え方」を働かせる活動を意識して取り入れていることが少しずつ効果を上げていると思われる。しかし、学習が定着していない児童がどの学年にも3分の1程度見られることを考えると、全ての児童が「分かった」を実感できる授業改善を早急に進めなければならない。 ・学習内容の定着率を上げるために朝学習の効率化を図る。学びの確認と回復指導を時間内に行えるよう見直しを行う。 <p>【年度末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の約束・ノート指導については、全校で意識して取り組んだ。朝学習では、国・算・短作文と基礎力を付ける取り組みと、本の紹介と読み聞かせを曜日を決めて行った。読書への関心意欲の高まりとともに、学びをさらに深めるための次の工夫をしていきたいと考える。 ・学級の実態に合わせてコース別学習など学習形態を工夫することにより、主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。学習の定着度が二極化されているので、下位と上位のそれぞれの児童の学力を伸ばせるよう、指導法のさらなる工夫が求められる。 					
評価指標（学校の実践課題）			具体的な取組内容			
①基礎・基本の確かな定着に向けた基本的な学習習慣の形成 ②諸検査の結果分析とその活用による授業改善			<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の約束」の定着、読書指導、ノート指導。 ・朝学習の充実～継続的な読書習慣づくりと読書の幅を広げるための読書紹介活動。 ・効果的な家庭学習や音読の実施、漢字テストの実施 ・諸検査の結果分析と回復指導 ・「見方・考え方」を明らかにした授業構想 			
<資料>						
<p>◇基礎・基本の確かな定着に向けた基本的な学習習慣の形成について</p> <p>○児童アンケート：クラブは左より「あてはまる・だいたいあてはまる・あまりあてはまらない・ほとんど当てはまらない」上段7月下旬12月</p> <p>①「学習の約束」を守り進んで学習している</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【達成率74(+7) 肯定率77(+12)】</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>【達成率74(-3) 肯定率90(-5)】</p>  </div> </div> <p>○保護者アンケート：</p> <p>①家庭学習の習慣が身に付いている</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【達成率61(1) 肯定率69(+3.8)】</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>【達成率58(2) 肯定率69(-2.2)】</p>  </div> </div>						
<p>◇校内研修の振り返り</p> <p>○職員アンケート「研究仮説1より、今年度重点的に取り組んだ内容は何か？」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>7月</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>12月</p>  </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>鹿角小学校授業研究会 (5年生 音楽)</p> </div>						

基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	ふるさとに愛着をもち、地域行事に参加している児童が多い。学校教育目標の今年度の重点である「たくましく」については、まだ十分とはいえない。	中間	3	中間	4	地域が学習の場を提供し、地域の大人との交流により、ふるさとへの愛着を深める体験や交流が充分に行われている。効果は今すぐに出なくても学んでいるものは大きい。八幡平をよく知り、将来は地域を担う人材へと成長してほしい。
年度末	ふるさと八幡平・鹿角から学ぶ活動に数多く取り組むことで、ふるさとに対する愛着がより深まっている。幼保小中連携を肯定的に捉えている児童が増えた。	年度末	3	年度末	4	体験・見学・夢先生など実際に触れる活動は学びが大きい、それらを重視し、充実した取組が行われている。地域行事に積極的に参加している児童も多い。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・年間指導計画に沿って、各学年でふるさと八幡平を教材とした体験活動が展開されている。それぞれの活動で、地域の方々と交流することによって、ふるさと八幡平のよさを発見したり、愛着を深めたりすることができている。今後は、体験活動の事前や事後の指導を今まで以上に充実させることにより、体験活動を学びあるものにしていきたい。また、職業講話や「夢先生」を実施することにより、自分の将来について考える機会としたい。					
	【年度末評価】 ・11月20日に行われた「夢の先生（5年）」では、元プロボクサーの方から「夢をもつことや、その夢に向かって努力することの大切さ」「仲間と協力することの大切さ」について学んだ。11月27日に行われた「職場体験（6年）」では、市内7つの事業所に分かれて出かけ、働くことについて体験したり見聞したりしたことを通して、将来の自分がどうなりたいのか、どうしたいのかを考えることができた。また、委員会活動やクラブ活動でなかよしセンターを訪問し、園児との交流を深めることができた。 ・3年生のしばり大根栽培体験では、今年度から新しい農家さんとの取組となったが、事前打ち合わせを十分に行ったことで例年通りの成果を上げることができた。					
評価指標（学校の実践課題）				具体的な取組内容		
①ふるさとのよさを発見し、ふるさとへの愛着を深めるための活動の充実 ②自分の将来を見つめることを目指した体験活動や小中連携の充実				・地域素材・人材の活用、地域探検、社会科見学、校外学習 ・歴史や伝統・先覚者の偉業に対する理解、ふるさとのよさの発信 ・体験活動を生かしたキャリア教育の充実 ・職業講話や「夢先生」の実施 ・なかよしセンター・中学校と連携した活動		
<資料>						
◇ふるさとキャリア 左から「大好き・好き・あまり好きではない・好きではない」 上段7月下旬12月						
1 アンケートより(児童・保護者・職員)						
①八幡平地区が好きですか						
○児童:達成率77(-3) 肯定率90(-1)						
○保護者:達成率74(+10) 肯定率86(+5)						
○職員:達成率67(±0) 肯定率93(+1)						
②将来の夢や目標をもち、それに向かって努力している						
○児童:達成率75(+4) 肯定率80(+2)						
○保護者:達成率59(+5) 肯定率65(+6)						
○職員:達成率62(-5) 肯定率87(+4)						
◇地域・小中連携 左から「良い」「だいたい良い」「あまり良くない」「良くない」						
1 児童【達成率77(+10) 肯定率85(+19)】						
2 保護者【達成率88(+3) 肯定率97(+1)】						
3 職員【達成率80(+8) 肯定率100(+8)】						
						
						

基本方向3 「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント															
年度初め	児童は情報機器の操作に積極的に取り組んでいる様子が見られる。「はちまんたいっ子学び合いスキル」が定着し、発表を繋げられるようになってきた。	中間	3	中間	3	学び合いを取り入れた授業が定着し、考えを深めていると実感している児童が増えている。タブレット端末活用のスキルアップと共に、対面でもコミュニケーションができるようバランスのとれた学びを進めてほしい。															
年度末	・ICTを活用した授業に積極的に取り組み、操作スキルが身に付き、表現活動での有用性も発揮できた。 ・「聞く力」が備わった学級は活発な学び合いが行われている。	年度末	3	年度末	4	授業参観をすると、日頃からICTを活用した授業が普通に行われていることがうかがわれる。学び合いについては、児童個々の特性をいかにしながら、児童が考えを深める授業を続けてほしい。															
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・学習アンケート（7月）の結果から学び合いを取り入れた授業が定着し、児童が考えを深めていると実感している様子が見える。児童の話聞く力には個人差があり、ペアやグループでの学び合いが多くなっている現状があり、児童が主体的に学ぶための発問を吟味して授業を組み立てる必要がある。																				
	【年度末評価】 ・ICTの活用を、表現力の育成という視点だけではなく、基礎学力の定着に有効活用していきたい。 ・学び合いを充実させるために、各教科の用語などを押さえた言語活動の充実が図られた。一方で、学び合いを意識した授業実践が少なく、身に付けた用語をいかす場が足りなかった。アウトプットによって学習が定着するので、発問を吟味し場の設定を工夫して、学び合いをいかした授業に取り組み、関わり合いながら学ぶ楽しさを実感させたい。																				
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容																			
①学び合いの充実を図り、自分の考えを進んで表現する態度の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いの場の工夫、考えを深める発問の工夫 ・豊かな表現活動の推進（朝学習での短作文、今月の歌、学習発表会） 																			
②ICTの効果的な活用による情報活用能力の育成		<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やタブレット端末の効果的な活用 ・プログラミング教育の推進 ・情報モラル教育の推進 																			
<資料>																					
◇コミュニケーション能力																					
○学習アンケートの結果より 上段7月12月 ・ふだんの学習では友達と話し合って自分の考えを広げたり深めたりできていると思う。…肯定率83.8%																					
<table border="1"> <caption>学習アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>ともそう思う</th> <th>まあまあそう思う</th> <th>あまりそう思わない</th> <th>全く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>30.9%</td> <td>41.6%</td> <td>16.8%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>38.2%</td> <td>54.2%</td> <td>16.6%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>							時期	ともそう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	全く	7月	30.9%	41.6%	16.8%	0%	12月	38.2%	54.2%	16.6%	0%
時期	ともそう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	全く																	
7月	30.9%	41.6%	16.8%	0%																	
12月	38.2%	54.2%	16.6%	0%																	
○児童アンケート ・あなたは自分の考えを進んで発表していますか。 【肯定率66(+4) 達成率72(+8)】																					
<table border="1"> <caption>児童アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>している</th> <th>だいたいしている</th> <th>あまりしていない</th> <th>していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>22.1%</td> <td>37.4%</td> <td>30.2%</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>33.3%</td> <td>40.6%</td> <td>21.9%</td> <td>3.2%</td> </tr> </tbody> </table>							時期	している	だいたいしている	あまりしていない	していない	7月	22.1%	37.4%	30.2%	4.3%	12月	33.3%	40.6%	21.9%	3.2%
時期	している	だいたいしている	あまりしていない	していない																	
7月	22.1%	37.4%	30.2%	4.3%																	
12月	33.3%	40.6%	21.9%	3.2%																	
○職員アンケート ・子どもたちは進んで学び合いに参加したり、自分の考えを表現しようとしていたりしている。【肯定率62(-5) 達成率79(+2)】																					
<table border="1"> <caption>職員アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまり思わない</th> <th>全く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>23</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>7</td> <td>72</td> <td>21</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>							時期	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く	7月	23	54	23	0	12月	7	72	21	0
時期	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く																	
7月	23	54	23	0																	
12月	7	72	21	0																	
◇情報活用能力																					
○児童アンケート ・あなたはタブレットを使った学習に進んで取り組んでいますか。 【達成率86(-1) 肯定率95(+1)】																					
<table border="1"> <caption>児童アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>取り組んでいる</th> <th>だいたい</th> <th>あまり</th> <th>全く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>60.2%</td> <td>36.0%</td> <td>3.2%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>66.7%</td> <td>28.1%</td> <td>5.2%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>							時期	取り組んでいる	だいたい	あまり	全く	7月	60.2%	36.0%	3.2%	0%	12月	66.7%	28.1%	5.2%	0%
時期	取り組んでいる	だいたい	あまり	全く																	
7月	60.2%	36.0%	3.2%	0%																	
12月	66.7%	28.1%	5.2%	0%																	
○職員アンケート ・子どもたちはタブレット端末の活用に進んで取り組み、情報活用能力の基礎を身に付けている。 【達成率78(+9) 肯定率93(+8)】																					
<table border="1"> <caption>職員アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>そう思う</th> <th>ややそう思う</th> <th>あまり思わない</th> <th>全く</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月</td> <td>23</td> <td>62</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>40</td> <td>53</td> <td>7</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>							時期	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く	7月	23	62	15	0	12月	40	53	7	0
時期	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	全く																	
7月	23	62	15	0																	
12月	40	53	7	0																	

基本方向4 「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	元気に外や体育館で体を動かして遊ぶ児童が多い。あいさつの声が全体的に小さい。学校のルールを守ることや公共の物を大切に使うこと、友達との関わり方などについて、課題がある。	中間	3	中間	4	取組の成果が現れ、明るいあいさつができています。いつでもどこでもだれにでも自然にできるためには継続した取組が必要。今後も大切にしてほしい、
年度末	休み時間に他学年と一緒に遊ぶ姿が見られる。互いに声を掛け合っており、和やかな雰囲気を感じられる。あいさつについては、自分からあいさつをする児童が増え、声の大きさもアップしている。	年度末	3	年度末	4	あいさつの声の大きさや積極性が向上し、児童も教職員も生き生きとした活気が伝わる。様々な場面で他学年交流を実施していることも、良い効果をもたらしている。学校外での生活でもあいさつや公共施設の利用状況が良くなっている。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・年度当初に比べて、あいさつする声の大きさが少し向上し、相手の顔や目を見て声を発する児童が増えてきている。9月には学年輪番制であいさつ強調期間を設け、コミュニケーションの一つとして主体的なあいさつを目指して取り組む予定にしている。 ・1学期末に運営委員会企画の全校遊びを行った。縦割り清掃班ごとに友達と触れ合うことができた。2学期は企画の段階から全校を巻き込んでなかよし集会を実施する予定にしている。また、児童会活動が、全校の目に見える形で、児童中心に進めていくことを目標に、活動の充実を図っていく。					
	【年度末評価】 ・あいさつ声が大きくなってきた。9月の「あいさつ運動」では各学年とも張り切って取り組んでいた。 ・「なかよし集会」では全校からアンケートをとって全校遊びを行った。誰もが楽しめるようにルールを工夫したことで、子どもたちは安心して参加することができた。また、各委員会では全校を巻き込む企画を出し、「児童が仲良くなる」「共通した話題で盛り上がる」など、交流の場を広げることができた。 ・hyper-QUの分析結果報告会の2回目を3学期はじめに行い、年度末まで集団を育てていくために共通理解を図る。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①明るいあいさつや場に応じた言葉遣い等、向上心、思いやりなど豊かな心の醸成 ②互いのよさを認め合い、自己有用感と主体性を育む集団づくりの推進	・あいさつ運動の実践、全校集会等での呼びかけ ・礼儀・態度等、その場において望ましい在り方への指導 ・月の生活目標の取組 ・hyper-QUの分析を生かした学級づくり ・道徳教育の充実 ・年間を通した「なかよし大作戦」（いじめ防止の取組） ・いじめ防止強調月間の取組（異学年交流でのなかよし集会） ・学級活動・児童会活動等の充実、全校縦割り活動の充実

<資料>

◇明るいあいさつ、言葉遣い、思いやり（アンケート）左から「良い・だいたい良い・あまり良くない・良くない」 上段7月 下段12月

①あいさつ【達成率81(+2) 肯定率88(+2)】

②思いやり・協力【達成率89(+1) 肯定率98(±0)】

1 児童



2 保護者

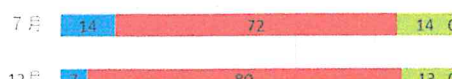
①望ましい生活習慣【達成率60(+4) 肯定率64(-6)】

②思いやり・協力【達成率71(+9) 肯定率81(-5)】



3 職員

あいさつ・思いやり・協力【達成率64(-3) 肯定率87(-1)】






あいさつ運動

なかよし集会




基本方向5 「健やかな体の育成」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント	
年度初め	基本的な生活習慣を児童に呼びかけているが、欠席や睡眠不足に見える児童が多く、学校の指導はまだ改善の余地がある。	中間	3	中間	3	工夫ある取組がなされている。全校で活動できる催しを最大限いかしてほしい。一方、児童と家庭とのコミュニケーションを高めて課題解決に向かうために、家庭に任せることも大切と思う。	
年度末	ノーメディアの日や歯磨き指導などで規則正しい生活習慣を呼びかけてきたが身に付かない児童が見られる。全体としてはメディアに触れる時間が減り、家族の会話や読書が増えるといった効果があった。	年度末	3	年度末	3	生活習慣の改善は見えずらく、取組が難しい面もあると思うが、運動に関しては、得意不得意を乗り越えて、個々の児童の意欲がいかされるよう今後も取組を継続してほしい。ここでも若干の二極化が見られるので、対応に期待したい。	
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・「げんきもりもり週間」では重点項目を設定しながら、幼保・中と連携し同時期一斉実施することによって、兄弟姉妹同じ目標をもって取り組むことができている。「ノーメディアの日」では1年間の取組が分かるようチャレンジカードの見直しを行い、メディア利用時間の記入や親子ふれあいコース（お手伝い等）の項目を追加した。ルール設定率が7割程度のため、親子の話し合いとルール徹底を目標に表紙には「我が家のルール」を記入させ実践している。 ・歯みがき指導後「親子で歯みがきチェック」を実施し、親子で歯みがきや歯と口の健康について考えることができた。 ・昨年度の体力テストの結果に基づいた児童の苦手としている運動能力を伸ばすためのトレーニングを休み時間に行った。体育的行事や業間運動を通じて運動に取り組んだ。運動に意欲的に取り組む児童。消極的になってしまう児童の二極化が見られるので、全行が運動する機会が増えていくようマラソン記録会やスキー教室に関連付けて働きかけていきたい。						
	【年度末評価】 ・体育委員会主催のスポーツウィークでは「逃走中」「ドッチボール大会」を行い、児童が主体的に運動に取り組んだ。マラソンチャレンジでは、走ることが苦手な児童にとっては負荷が大きい目標となっていたので改善が必要である。 ・効果的なポイント・タイミングで外部機関と連携した保健指導を行うことで、やってみたいという児童の意欲向上につながった。生活習慣の改善には家庭での取組が効果的であるため、保護者の関心を生活習慣の改善に向けられるよう、児童の成長を学校保健委員会や保健だよりで確実に発信していきたい。						
評価指標（学校の実践課題）				具体的な取組内容			
①よりよいライフスタイルの確立 ②運動習慣の形成と体力向上のための継続的な取組				・「げんきもりもり週間」、「ノーメディアの日」、歯磨き指導、清潔検査、姿勢指導の実施、保健便りの定期発行 ・病気やけがの予防に関する指導、疾病治療の奨励 ・学校保健委員会の充実 ・体育的行事や新体力テストを生かした運動・スポーツの実践 ・業間運動（「スポーツチャレンジ」）の充実			
<資料>							
グラフ左から「している ままあしている あまりしていない 全くしていない」・上段7月 下段12月 ◇よりよいライフスタイルの確立 1 児童アンケート【達成率76(±0) 肯定率90(-1)】 「早ね 早おき 朝ごはん」や歯みがきをしている。							
				◇運動習慣の形成・体力向上 1 児童アンケート【達成率84(+1) 肯定率 88(+1)】 「体力作りのために進んで運動している」			
				2 保護者アンケート【達成率76(+11) 肯定率79(-4)】 「体力向上のために進んで運動に取り組んでいる」			
				3 職員アンケート【達成率71(-10) 肯定率87(-13)】 「体力増進のために進んで運動に取り組んでいる」			
マラソン記録会		体育委員会企画「逃走中」		手洗い教室		食育講座	

基本方向6 「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	特別支援学級5名、特別支援教育支援員対象の児童が合計11名在籍している。個別支援については情報共有を密にして取り組んでいる。	中間	3	中間	3	目的に応じた体制づくり、取組は良い。子どもの良さを伸長する機会、ちょっとした変化に気付くことができるような組織づくりを通して、「学校が過ごしやすくない子」が減ることを願う。
年度末	個別の指導計画に沿ったきめ細やかな教育、児童の面談やケース会議による対応を通して、学校全体が落ち着き、子どもたちの表情や声に明るさを感じられる。	年度末	3	年度末	4	児童の様子を職員全体で共有し、随時対応することができている。学校を訪問した際にも、教職員が丁寧に子どもたちに目を配っている様子が見られるなど、きめ細やかな教育を感じる。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から毎週木曜日の打ち合わせの最後に「児童を語る会」を設定し、子どもの様子を職員全体で共有している。また、状況に応じてケース会議を開き、気になる様子が見られる子どもに対し、即時に学校全体で対処するように努めている。10月には子ども1人1人と担当が面談する予定である。 ・体育的行事やスポーツチャレンジを通して運動に積極的に取り組んだ。しかし、運動に意欲的に取り組む子どもと消極的な子どもの2極化が見られるので、全校が意欲的に運動を行えるよう、働きかけていきたい。 <p>【年度末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童を語る会」で、子どもたちの様子について細かなことでも時間をおかずに通理解ることができた。日常の指導について対策を考えたり状況に応じてケース会議を適宜行ったりすることにより、早期対応ができた。 ・10月の個人面談では、児童の成長や悩みなどを受け止め、日常の指導にいかすことができた。 ・12月実施の学習アンケートでは、学年が進むにつれて「学校が好きだ」の肯定的回答が減る傾向がある。一人一人に応じた対応を考え、学級や学校が子どもたちにとってよりよい学びの場となるよう取り組んでいきたい。 					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
①一人一人の教育的ニーズの把握と校内支援体制の整備 ②一人一人の居場所をつくり、よさを伸長する機会や役割の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画・支援計画の活用、時間割の工夫、 ・全校支援体制、特別支援教育支援員・特別支援教育コーディネーターの活用 ・「心のアンケート」の実施、互いのよさを見付け、認め合う場の設定 ・個人面談・児童を語る会・ケース会議の設定 ・関係機関との連携・情報共有 				
<資料>						
◇一人一人の教育的ニーズの把握・校内支援体制						
○職員アンケート 左より「良いと思う・やや良いと思う・良いと思わない・全く良いと思わない」 上段7月下旬12月						
① 校内支援体制【達成率76(-1)・肯定率93(-1)】						
	7月	38	54	8	0	
	12月	35	57	7	0	
② 居場所づくり【達成率86(+17)・肯定率100(+8)】						
	7月	18	77	8	0	
	12月	57	43	0	0	
◇居場所づくり・よさの伸長・役割の充実						
○児童アンケート						
・学校はあなたにとって過ごしやすい場所ですか？						
【達成率74(±0)・肯定率89(+1)】						
		とても過ごしやすい	まあまあ過ごしやすい	あまり過ごしやすくない	全く	
	7月	36.5%	51.0%	10.4%	2.1%	
	12月	35.1%	53.0%	8.2%	2.1%	
						
意見を出し合い共に創造する場の設定		ふれあい給食（食育と交流）		「自分でできる」教材開発		

基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	安全意識について児童はおおむね高いが、より現実在即した判断力を身に付けていくことが大切である。また、校舎・校地内での老朽化に伴う問題点が散見される。	中間	3	中間	4	安全・安心を第一に考え、学校生活内での大きな事故やケガがなく、良好な状況だと思う。
年度末	校舎老朽化への対応を市教委と相談しながら進めている。避難訓練やアレルギー研修会は本番を想定した内容へと改善した。登下校や長期休業中も含めて大きな事故はなかったが、危機対応への判断力の育成は継続していきたい。	年度末	3	年度末	4	安全な環境に配慮し、児童が安心して過ごすことができている。子どもたちの安全に対する意識が高まり、子どもたち自らが注意して生活している。また、適切なメール配信等で、危機意識を児童や保護者と共有しながら安全対策をしている。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校集会、1学期末終業式等の機会に、安全教育に関する指導を行ってきた。熊の出没、下校時の安全等については、適宜指導、迅速な対応を心掛けてきた。学校生活での大きな事故やけがはほとんど無かった。今後も、日常生活における事故やけがの未然防止を意識した指導を継続していく。 毎日の校内巡視に加え、月に一度の頻度で校舎・校地内の安全点検を全職員で実施しており、問題箇所の早期発見に努めている。 <p>【年度末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎や校地の安全確保に向けて全職員で取り組むことができた。この1年間、教職員や児童が自己なく過ごせたのは何より良かった。 P・T・A清掃ボランティアによるトイレを中心とした清掃活動を行っていただくことができた。 2学期終業式では冬休みの安全指導として、「雪の事故」「メディアコントロール」を指導した。 大きな事故やケガはほとんどなかったが、危険場面や判断を誤って行動した後などをあらかじめ想定して行動することの大切さや、普段の生活での安全な過ごし方を考えさせることが今後の課題といえる。 					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
①安全教育の推進と危機対応能力の向上	②校舎内外の安全確保と施設・設備の適切な整備	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導・防災教育・集団登下校・地区子ども会の実施 避難訓練の計画的な実施（事前・事後指導の充実） 関係機関との連携 日常の点検と整備、「学校安全日」の実施 危機管理マニュアルの活用 学校メールの活用 				
<資料>						
◇安全教育・危機管理						
○児童アンケート【達成率88(±0) 肯定率98(±0)】 上段7月 下段12月		<p>あなたは、地震・火事のときや不審者に会ったとき、どうすればいいかわかりますか。</p> <p>よくわかる だいたいわかる あまり</p> <p>7月: 67.7% (よくわかる), 30.7% (だいたいわかる), 1.6% (あまり)</p> <p>12月: 65.6% (よくわかる), 32.3% (だいたいわかる), 1.2% (あまり)</p>				
○保護者アンケート【達成率82(+13) 肯定率94(+2)】		<p>学校は安全指導や緊急時の対応を指導している。</p> <p>よい まあまあよい 少し不十分 不十分</p> <p>7月: 30.7% (よい), 70.6% (まあまあよい), 4.3% (少し不十分), 4.4% (不十分)</p> <p>12月: 27.6% (よい), 71.6% (まあまあよい), 5.4% (少し不十分), 5.4% (不十分)</p>				
○職員アンケート【達成率64(+2) 肯定率80(+1)】		<p>子どもたちは安全に過ごす意識をもち、その方法身に付けている。</p> <p>そう思う ややそう思う あまり 全く0</p> <p>7月: 72 (そう思う), 21 (ややそう思う), 0 (あまり), 0 (全く)</p> <p>12月: 67 (そう思う), 20 (ややそう思う), 0 (あまり), 0 (全く)</p>				
 <p>アレルギー講習会</p>		 <p>避難訓練（洪水から身を守る）</p>		 <p>地区子ども会</p>		

基本方向 8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	学級担任の中で若手教員が占める割合が高く、実践的な研修を積み、授業改善を進めなければならない。	中間	3	中間	4	意欲的・効果的に研修がなされている。先生方の過重負担や、負担の偏りに配慮しながら、取り組んでいただきたい。
年度末	研究主任を中心に、校内授業研究会や初任者研修などを通じて、1人1回参観授業を行い、全員で授業力向上に努めた。	年度末	4	年度末	4	授業研究会を軸に取り組んで来た成果が、子どもの成長と教職員の資質向上に結びついている。子どもたちの願いや教師のねらいが感じられる授業が見られた。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・毎週の打合せの後にいった学団ごとの教材研究により、若手教員が授業に取り組みやすくなっている。授業研究会のための模擬授業も活用し、授業力向上のための研修を深められた。 ・それぞれの教員が、自分の校務分掌を丁寧にしたり、年次研修や職務研修で学んだりすることで、秋田県教職キャリア指標に基づく研修が推進されている。					
	【年度末評価】 ・鹿角小学校授業研究会において5年生音楽を公開した。2年間の研究成果を表現することができ、参加者から多様な意見を得たことで貴重な学びの場となった。また、公開に向けて研修が深まり、授業力の向上が図られた。音楽では教材分析を行うシートを活用した教材研究が定着した。若手教員も教材研究をしやすいうように、授業プランシートの活用を促していきたい。 ・校外での研修成果について報告会を開き、その成果を全体共有することができた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①指導力を高め、学校課題に沿った校外での研修の充実 ②研究主題の具現化に向けた授業力向上のための研修の充実	・「秋田県教職キャリア指標」に基づく研修の推進 ・校外研修の成果の全体共有 ・授業研究会・全体研修会の実施 ・研究部報の発行

<資料>

◇校内研究・授業力向上のための研修

左から「そう思う ややそう思う あまり思わない 全く思わない」上段7月 下段12月

○職員アンケート

・学習指導や生徒指導に関わる本校の課題に即した研修や諸会議が充実している。【達成率81(7) 肯定率100(±0)】



・授業改善に向けた効果的な取り組みが行われている。【達成率83(+4) 肯定率100(±0)】



・校内外の各種研修に意欲的に参加し、授業改善に取り組んでいる。【達成率82(+5) 肯定率100(+8)】



校内授業研究会 研究授業・研究協議会の様子



基本方向9 「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況	自己評価		外部評価		外部評価者のコメント	
年度初め	・保護者や地域住民の協力を得ながら様々な教育活動が展開されている。 ・学年通信、学校報、ホームページ・ブログ等を通じて可能な限り本校の取組に対する発信を行っている。	中間	3	中間	4	さまざまな情報発信の他、保育園との交流・PTA熟議の開催・地域ボランティアの活躍等、創意工夫ある多くの活動が実施されている。「はちまんたい教育の日」にも期待したい。
年度末	・保護者や地域住民の協力を得ることで、ふるさと八幡平への理解を深めることができた。 ・「はちまんたい教育の日」を通じて、メディアとの関わり方について考えることができた。	年度末	4	年度末	5	子どもたちの様々な体験活動、「はちまんたい教育の日」、学校運営協議会等を通じて、積極的な連携や情報発信を行っており、地域の良さをいかした取組ができています。今後も継続をお願いしたい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中が一緒になって行う学校運営協議会を活用して、参加者それぞれの立場から、ふるさと八幡平に期待すること、八幡平に生きる子どもたちに望むことなどを出し合うことにより、目指すべき方向性について共通理解することができています。 ・今年度は「はちまんたい教育の日」が行われる年である。八幡平地区の特色あるこの活動を、保護者や地域住民の方々の協力を得ながら、実のあるものにしていきたい。 ・地域コーディネーターの尽力により、読み聞かせが本格的に始まった。プール授業の見守りにも協力していただいている。持続可能な活動の土台を作っていきたい。 <p>【年度末評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に行われた「はちまんたい教育の日」では、地域の教育的課題でもあり、八幡平地区PTAが他地域に先駆けて取り組んできたメディア関連の講演会を、2部構成で実施することができた。すぐに成果として表れるものではないが、メディアとの適切な関わり方について、正しい判断ができるよう、今後も取り組んでいく必要がある。 ・総合的な学習の時間で取り上げているしほり大根（3年）や枝豆（5年）について、地域の農家の方々から多大なるご協力をいただいた。持続可能な方法を探り続けていきたい。 					
評価指標（学校の実践課題）			具体的な取組内容			
①学校運営協議会による学校運営と家庭・地域への積極的な情報発信 ②地域の教育力の活用と幼保・中との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の開催 ・「はちまんたい教育の日」を通じた取組の推進 ・学校だより・学年だよりの発行、HP・ブログの利用 ・P6会議と3P会議による小中連携教育の推進 ・地域人材や地域素材の積極的な活用、事前事後指導の充実、地域行事への参加の奨励、 ・地域学校協働本部事業との連携・持続可能な活動の開拓 					
<資料>						
<p>◇情報発信 左からそう思う ややそう思う あまり思わない 全く思わない 上段7月下段12月</p> <p>○保護者アンケート【達成率87(-3) 肯定率96(+2)】 ・学校は子どもたちの様子を家庭に伝えている。</p> <p>○職員アンケート【達成率80(+1) 肯定率100(±0)】 ・地域の声を生かした学校運営が進められ、子どもたちや保護者に学校の様子が伝わっている。</p> <p>◇連携</p> <p>○職員アンケート【達成率80(+8) 肯定率100(+8)】 ・子どもたちは幼保・中との交流事業、地域と連携した学習に意欲的に参加し、生き生きと活動している。</p> <p>○児童アンケート【達成率77(+10) 肯定率85(+19)】 ・あなたは地域に出かける学習や保育園や中学校との交流学習に進んで参加していますか。</p>						
						
はちまんたい教育の日		しほり大根体験学習		枝豆栽培体験学習		